

## ②釧路＝丘珠路線

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道東の経済等の中心的機能を担う中核都市である当該地域においては、札幌圏域とのビジネス流動は多いが航空路の利用が進んでいない。</li> <li>・2地域間のビジネス移動は多いものの、冬期の欠航リスクが高いことや他の交通機関より割高な運賃設定により、航空の利用が進んでいない。</li> </ul>
方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・悪天候により欠航（春夏の霧：釧路、冬季の雪：丘珠）が多発するため、利用者に不利益を生じさせない細やかな配慮が必要となっている。そのため、市街地から空港アクセスバスが運航している主要ターミナルにおいて、リアルタイムの運航情報を提供し、空港代替交通機関への変更がスムーズに実施できるようにすることで、航空利用のイメージ向上を図る。</li> </ul>
結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組前と比べ冬期間の欠航が大幅に少なかったこと、また、2016年8月の台風災害により地上交通（JR、国道38号）が寸断され、釧路～道央への移動客が航空路線にシフトし、HACが臨時増便したことなどの予想できない外的な背景があり、効果検証をするのが難しい面もある。</li> </ul>
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運航情報モニターの認知度が低く、設置場所、周知方法に改善の余地があり、直接的な航空需要には繋がりにくい。</li> <li>・定性的には冬季就航率が低い当該路線において欠航時における早期の情報発信により、利用者の利便性向上と不安解消に役立っている。</li> <li>・軽微なコストで継続できるため、モニターの認知度向上により効果を期待できる。</li> </ul>